

ご関係のみなさまへ

日本防災士会・新潟県支部 事務局 成川一正

令和 6 年能登半島地震 日本防災士会・新潟県支部の対応

能登半島地震でお亡くなりになられた皆さまに、謹んでお悔やみ申し上げますとともに、被災された皆さまに心よりお見舞い申し上げます。

■震災後の新潟県支部のうごき

1月1日 発災後すぐに避難所運営訓練に関係した防災士が中心となって地元の小中学校やコミュニティセンターなどの避難所運営にあたる
津波避難誘導や自主防災会の運営、ペット避難などの報告がありました
身内や会社同僚の家が液状化するなどの被害

家具が固定化されていない家屋の被害(上越市直江津)震度 5 強 津波警報



1月2日 宿泊避難者への対応などが報告される
夕方までには新潟県下のほとんどの避難所が閉所
各防災士が地元などを見廻り(液状化箇所等を市役所に報告)
新潟県災害ボランティア調整会議(新潟県社協)から新潟市西区社会福祉協議会が災害ボランティアセンターを立上げ準備に入り派遣要請を受ける(第1回会議)
協働型運営の団体として一役を担い西区社協と協働をはじめる



新潟市西区の液状化被害状況

1月3日 新潟市西区社協が災害ボランティアセンターの設置
 西区社協とペアリングで「断水・液状化地域ローラー作戦」(ニーズ調査)6名を派遣
 県内開設されている避難所5か所(避難者27名)いずれも新潟市西区
 住民主導型避難所に3名派遣(防災士5名が交代で宿泊避難者の対応)以後毎日



新潟県社協、西区社協、NSVN 李仁鉄代表、フードバンクにいがた、新潟ねっと、防災士会新潟県支部

1月4日 「社協職員や防災士を中心としたチームで状況確認のため訪問調査
 を実施しています。」(下記社協 HP 案内文にて)5名派遣

<https://niigatanishiku-syakyo.jp/4503/>

6日～8日災害ボランティア募集開始(即日定員に達する)

1月5日 6日開始のボランティアセンター準備 9名を派遣(ニーズ調査、VC設営)

1月6日 新潟市西区災害ボランティアセンター本格稼働
 災害ボランティア(一般32名+団体48名=80名)

VCスタッフ防災士12名派遣(資材班、マッチング班、受付、ニーズ調査)担当



朝のスタッフミーティング



一般ボランティアにリエンション(長濱防災士)

1月7日 VCスタッフ防災士12名派遣(資材班、マッチング班、受付、ニーズ調査)担当



— 昨年の関川村でのボラセンスタッフの経験が活かされる

- 1月8日 降雪のためボランティア活動中止
引越し準備のため3名派遣
- 1月9日 引越し作業に13名参加



充分な作業スペースと広大な駐車場完備でボランティアさんをお迎えする準備 OK

- 1月10日 ボランティアセンター「みどりと森の運動公園」に移転
VCスタッフ防災士17名派遣(資材班、マッチング班、受付、ニーズ調査)担当



バージョンアップした災害ボランティアセンターで初日ボランティアさんをお迎え



- 1月11日 VCスタッフ防災士19名派遣
- 1月12日 VCスタッフ防災士14名派遣
- 1月13日 VCスタッフ防災士17名派遣
- 1月14日 VCスタッフ防災士20名派遣
- 1月15日 VCスタッフ防災士10名派遣
- 1月16日 VCスタッフ防災士10名派遣
- 1月17日 VCスタッフ防災士8名派遣
- 1月18日 VCスタッフ防災士15名派遣
- 1月19日 VCスタッフ防災士13名派遣
- 1月20日 VCスタッフ防災士14名派遣

防災士派遣20日間で累計250名超え

ご関係のみなさまへ

日本防災士会・新潟県支部 事務局 成川一正

発災から 3 週間 累計 300 名の防災士が新潟市西区で災害支援

1 月 21 日(日)能登半島地震の発災から 3 週間。

新潟市西区災害ボランティアセンターへの防災士派遣支援は、累計 250 名に達しました。

(集計に新潟市防災士の会の所属者と一般ボランティアでの参加者も含んでいます)

毎日 10 名以上の防災士を安定的に派遣することができています。

ボランティアさんも悪天候にも負けず連日定員に達し 20 日に累計 1,000 名を超えました。

■21 日 朝ミーティングでの集合写真



発災当日から始まっている「新潟市西区宿泊避難所の防災士派遣支援」は、1 日 2～3 名のシフトを組んで、本日で派遣した防災士は、累計 51 名に達しました。

こちらも、朝早くから夕方遅くまで元気に避難者の支援活動をしています。

■21 日 避難所のお昼ごはん おいしそうなカレー弁当が届きました。



ご関係のみなさまへ

日本防災士会・新潟県支部 事務局 成川一正

発災から4週間 累計370名の防災士が新潟市西区で災害支援

1月28日(日)能登半島地震の発災から4週間。

新潟市西区災害ボランティアセンターへの防災士派遣支援は、累計310名に達しました。未だに、液状化に伴う「泥だし」のニーズが絶えることはありません。ボランティアさんも悪天候にも負けず連日定員に達し28日に累計1,400名を超えました。

■28日 朝ミーティングでの集合写真



発災当日から始まっている「新潟市西区宿泊避難所の防災士派遣支援」は、1日2～3名のシフトを組んで、本日で派遣した防災士は、累計63名に達しました。

1月末日に避難所の集約につき閉所が決定し、被災者支援活動はもうすぐ完了を迎えます。

■28日朝の館内清掃(トイレ掃除も毎日行い感染症対策を徹底しています)



ご関係のみなさまへ

日本防災士会・新潟県支部 事務局 成川一正

西区宿泊避難所（市民運営型）の防災士派遣支援活動は完了 発災から1か月 累計410名の防災士が新潟市西区で災害支援

2月1日(木)能登半島地震の発災から1か月。

発災当日から始まり1か月間続いた「新潟市西区宿泊避難所(市民運営型)」への防災士派遣支援活動は、新潟市の避難所の集約により1月31日に無事、完了いたしました。

防災士による支援活動は、累計75名でした。

※宿泊避難所は、コミュニティセンターを利用した新潟市初となる「市民が運営する避難所」です。



■ 避難所運営の防災士スタッフ

■ 避難所の案内をはがす防災士

●朝早くの朝食の支度から夕食の片づけまで大変お疲れ様でした。



新潟市西区災害ボランティアセンターへの防災士派遣支援は、累計 335 名に達しました。
未だに、液状化に伴う「泥だし」のニーズが絶えることはありません。
ボランティアさんも悪天候にも負けず連日定員に達し1日に累計 1,500 名を超えました。

令和 6 年 2 月 7 日

ご関係のみなさまへ

日本防災士会・新潟県支部 事務局 成川一正

西区災害ボランティアセンターは、週末型に移行しました。
新潟市西区への防災士の災害支援は、累計 460 名に達しました。

2 月 7 日(水)通常型のボラセン最終日です。1 月 3 日に新潟市西区災害ボランティアセンターを立ち上げてから 30 日間あまり、ボランティアへの被災者ニーズが減少傾向であるため、ニーズを溜めてから「週末に開設」する「週末型」に移行することになりました。

本日で、日本防災士会・新潟県支部の活動としては、「一区切り」とさせていただきます。

派遣支援期間中の派遣防災士は、385 名に達して「参加団体でダントツの人数で派遣支援する」ことができましたことを報告いたします。(参加ボランティアは、累計1,694 名)

この期間中、万難を排して手弁当で、被災者のために「派遣支援」にご協力いただいた防災士のみなさん「本当にお疲れ様でした」みなさまの頑張りに「深く感謝」いたします。

今後も被災者支援活動は、長く続きます。これまで通り新潟県支部の長濱被災地支援部長(新潟市西区)が中心となって、最後まで西区社会福祉協議会を支援していきます。



■通常型最終日の防災士スタッフ



■防災士に労いの言葉をかける新潟市社協会長

注)表題の累計は、西区宿泊避難所運営支援(坂井輪コミュニティセンター)派遣防災士の累計 75 名を加算しています。宿泊避難所は、コミュニティセンターを利用した新潟市初となる「市民が運営する避難所」です。

令和6年2月18日

ご関係のみなさまへ

日本防災士会・新潟県支部 青柳 麻紀

「Be prepared～大切な人に出来ること～」(青柳防災士脚本)

演劇で学ぼう「大切な命を守る 今すぐできる**防災**を」大盛況

2月18日(日) 2年前コロナ禍で中止になった西蒲区初の防災啓発事業となる西蒲区自治協議会提案事業「演劇で学ぼう 大切な命を守る 今すぐできる防災を」が西川多目的ホールにて開催されました。

新潟県支部の青柳防災士が脚本を執筆し、演劇を通じて老若男女誰でも気軽に楽しんで防災について知り、学びきっかけ作りとして防災演劇を企画しました。

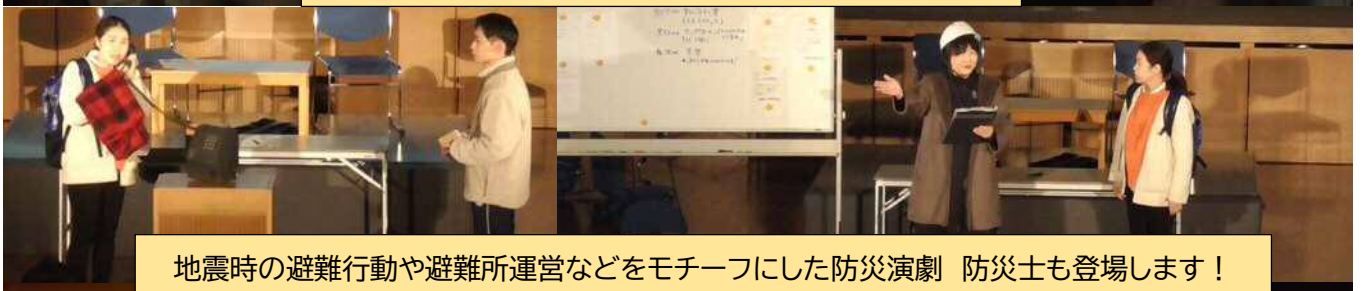
新潟県支部の方針である「災害で命を失うことの無い地域社会」にピッタリな内容となりました。

一般申し込み来場者 300名以上満員御礼の大盛況でした。1月1日の能登半島地震で、県民の防災に対する意識・関心が高まっている事が伺えました。

いつ起きるかわからない災害に対し、他人事ではなく、いかに自分事として考えることが出来るか？それを行動に移せるか？演劇を通じて伝える事が出来ました。



「劇団 KURITA カンパニー」による迫真の演技

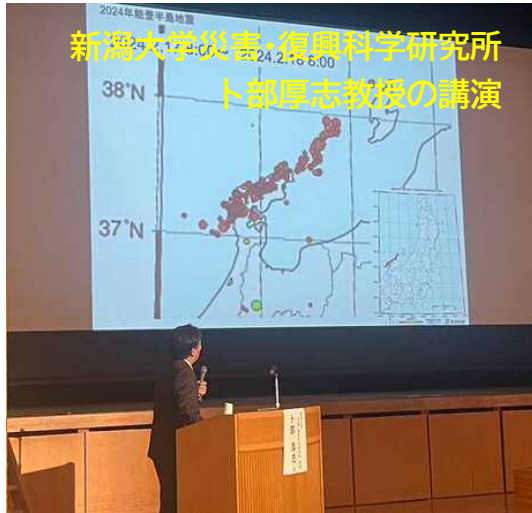


地震時の避難行動や避難所運営などをモチーフにした防災演劇 防災士も登場します！



新潟県支部は、アフタートークのパネリストとして成川事務局長が登壇し、新潟市防災士の会西蒲区支部様とともに展示体験ブース出展して事業に全面協力して盛り上げました。

演劇の前には新潟大学 災害・復興科学研究所 ト部厚志教授による「西蒲区の活断層について」の講演会があり、成川事務局長と共にアフタートーク及びその後の質疑応答に登壇しました。



■企画目的

- ・『災害で命を失うことの無い地域社会』にするため防災意識を高める。
- ・演劇を通じて『防災を身近に』感じてもらう。
- ・災害時に自分の命を自分で守れるように、大切な家族を守れるように『自助』の心を育む。
- ・地域住民と協力して助け合っているように『共助』の心を育む。

■概要

主催：西蒲区自治協議会

後援：新潟大学災害・復興科学研究所

協力：日本防災士会新潟県支部/ 新潟市防災士の会西蒲区支部

協働：日本防災士会新潟県支部 12 名、西蒲区支部 10 名



出展ブースも新潟県支部と新潟市防災士の会西蒲区支部との協働でたくさんの来場客がありました

ご関係のみなさまへ

日本防災士会・新潟県支部 上杉知之

「ミナト・イン・ワンダーランド 2024」にて防災啓発

3月2日(土)・3日(日)の両日、「ミナト・イン・ワンダーランド 2024」が万代島多目的広場「大かま」にて開催され、日本防災士会・新潟県支部では主催者の求めに応じ「防災」コーナーを担当しました。当日は多くの親子が訪れ、「防災」コーナーでは液状化実験やローリングストック等に高い関心が集まりました。

- 開催日時 令和6年3月2日(土)・3日(日) 10:00~16:00
- 主催 NPO 法人新潟海洋開発
- 共催 海と日本プロジェクト in 新潟実行委員会
- 後援 国土交通省北陸地方整備局新潟港湾・空港整備事務所
新潟県新潟地域振興局新潟港湾事務所、新潟市
- 開催目的 新潟西港万代島地区の更なるにぎわい創出
能登半島地震の復興支援
- 対象 子ども・親子
- 内容 遊び・文化・食・ハンドメイド・環境・音楽など



- 参加防災士 3月2日(土)12人、3日(日)11人
- 実施内容 液状化実験、心肺蘇生あっぱくん、非常持出袋、O×クイズ、TKB72など



ご関係のみなさまへ

日本防災士会・新潟県支部 事務局 成川一正

西区災害 VC は、みどりと森の運動公園を3月11日で移転 新潟市西区への防災士の災害支援は、累計480名で完了。

1月3日に新潟市西区災害ボランティアセンターを立ち上げてから60日間あまり、新潟県支部「被災地支援ワーキンググループ」が長濱部会長を中心に機能し頑張ってくれました。

派遣支援期間中の派遣防災士は、405名に達して「参加団体のなかでダントツの人数で災害支援する」ことができました。(参加一般ボランティアは、累計1,858名:3月8日現在)

また、1月1日からコミュニティセンターを利用した新潟市初となる「市民が運営する避難所」に「福祉防災支援ワーキンググループ」の防災士5名がローテーションを組んで1月31日までに累計75名の防災士が宿泊避難者のために支援いたしました。

寒いなか、ご参加いただいたボランティアのみなさんありがとうございました。

暖かい雰囲気での災害ボランティアセンターの運営をしていただいた新潟市西区社会福祉協議会はじめ新潟市社会福祉協議会のみなさんお疲れ様でした。

1か月間、朝早くから夕方遅くまで被災者に寄り添い宿泊避難所の運営を担当してくれた延べ75名の防災士とこの災害に立向かうためにボランティアセンターに集まってくれた延べ405名の防災士に「感謝」いたします。

現地に赴くことができなくても支援金や資機材をご提供いただいたみなさまへ「御礼」申し上げます。最後に「アイシテルニイガタ!!」で無事完了といたします。



※写真:新潟市社会福祉協議会ホームページより引用

ご関係のみなさまへ

日本防災士会・新潟県支部 事務局 成川一正

日本防災士会新潟県支部 能登半島地震から 3 か月間の活動報告

発災から3か月を迎え、新潟県支部の震災対応の経過をとりまとめいたしましたのでみなさまへご周知いたします。そして4月11日～13日に新潟県支部の第一陣が能登半島珠洲市の災害支援に向かいます。今年度もご支援とご協力のほどよろしくお願いいたします。

■成果報告事項

- 新潟市西区災害ボランティアセンターに防災士405名を派遣し社協と協働運営。
- 新潟市宿泊避難所に毎日3名が駐在して累計75名防災士が災害被災者を支援。
- 新潟市の小・中学生に避難行動アンケート調査して3,146票を回収。
- 能登半島地震復興支援イベント「ミナト・イン・ワンダーランド2024」に出展。
- 日本防災士機構より災害ボランティア用資機材50万円分の寄贈いただく。
- 西区災害VC支援の交通費(ガソリン代)が日本財団の支援活動事業に認定。
- NPO 石川県防災士会(石川県支部)に災害支援金10万円を寄付。
- 能登半島地震支援金の募金活動を実施して11名様より108,000円を受領。

■発災からのうごき

- 1月1日:発災時の避難所運営、津波避難誘導、ペット同行避難など地元で防災活動
- 1月2日:西区住民運営による宿泊避難所へ防災士が駐在(県支部福祉防災部会)
- 1月2日:西区社会福祉協議会へ防災士派遣を開始(県支部被災地支援部会)
- 1月3日:新潟市西区災害ボランティアセンターを立ち上げ(全国で一番早い開設)
- 1月10日:新潟市西区災害ボランティアセンターを総合運動公園に移転し規模拡大
- 1月31日:宿泊型避難所の統合により宿泊避難所を閉鎖 防災士累計75名で完了
- 2月10日:新潟市西区災害ボランティアセンターが毎日型から週末型に移行
- 2月18日:防災演劇「演劇で学ぼう 大切な命を守る 今すぐできる防災を」に出展
- 2月19日:NHK新潟「トーク610」で西区災害VC活動について長濱部長がテレビ出演
- 2月22日:防災学習を実施している小・中学生向け「避難行動アンケート調査」を開始
- 3月2～3日:能登半島地震復興支援事業「ミナト・イン・ワンダーランド2024 新潟」に出展
- 3月10日:新潟市西区災害VCが西区社協内に移転 防災士累計405名で活動支援完了
- 3月22日:小・中学生向け「避難行動アンケート調査」を終了
- 3月23日:防災・減災新潟プロジェクト2024に「ぼうさいO×クイズ」を提供
- 3月23日:NST新潟総合テレビ「今、考えよう!新潟の住まい」にO×マン登場



👉 西区宿泊避難所運営スタッフ
NSTの住まいの防災番組に出演👉



👉 NHK新潟「トーク610」出演の長濱部長
👉 西区災害VC支援の防災士スタッフ



ご関係のみなさまへ

日本防災士会・新潟県支部 事務局 成川一正

新潟県支部 珠洲市で災害支援ボランティア活動

4月11日～13日、珠洲市で災害ボランティアを実施いたしましたのでご報告します。
新潟市内の能登半島地震による液状化被害や避難所運営がひと段落し、新潟県支部会員5名は、能登半島地震の震源地付近で石川県支部が活動している珠洲市に入りました。

3か月が経過しているというのに主要幹線の道路啓開がしてあるだけで、ライフラインも調査段階で復旧しておらず、解体を待つと思われるガレキだらけで復旧には程遠い状況でした。

ボランティア活動中は、東京都支部、長野県支部、奈良県支部の方々と協働で作業するなど、交流も生まれました。

- 日時 令和6年4月11日(木)～4月13日(土)
- 人員 新潟県支部会員5名
- 内容 1日目: 畳の運びだし
2日目: 仏壇の運びだし 蔵の災害ゴミの運びだし
3日目: 住宅の災害ゴミの運びだし

道路啓開のため積まれたガレキと化した住宅や一階部分が押しつぶされたままの住宅



港湾部の津波被害も甚大で車や船も手つかずのまま



朝焼けのボラキャン珠洲

朝ごはん温めプロジェクト

最終日の終了後の集合写真



珠洲市の小学校と新潟市の小学校を石川県支部と新潟県支部が橋渡し

4月11日朝 5:00新潟県支部の事務局を出発して、約7時間30分後の 12:30 によやく石川県支部が避難所支援をしている珠洲市の小学校へ到着しました。

第一陣は、珠洲市に3日間の災害ボランティアを実施する他に、新潟市の小学校で集めた義援金を珠洲市の小学校に直接手渡しすることも第一陣の重要な目的の一つです。

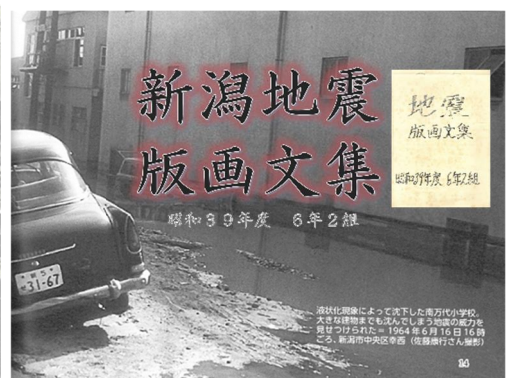
石川県支部の副理事長から珠洲市の小学校に繋いでいただき、授業に組み入れて Zoom オンラインで新潟の小学校 6 年生と交流しながら、義援金の贈呈式をすることができました。

新潟市の小学校は、新潟県支部が防災学習をサポートしている学校で、信濃川を見渡せる高層マンション群が建ち並ぶ都会の学校です。60 年前の「新潟地震」の際は、一階部分が液状化により沈下して、校舎の建替えして、現在は 3 代目の最新鋭の校舎です。(児童数 341 名)

校長室に所蔵されていた新潟地震当時の生徒が書いた新潟地震の体験作文と版画を新潟県支部がデジタル化して文集にしました。生徒達も防災学習で「新潟地震」を学んでいます。



●現在の新潟の小学校校舎



●1964 年 新潟地震当時の新潟の小学校と文集表紙



●3/14 新潟の小学校で義援金をお預かりした時

「赤ちゃん、おはあさね。おじいちゃん、みんなあわててにげてる。おあざむき、わあわあ。」という掛け声。みんなおどろいて逃げている。女の手。出前の途中の「おさん、重い物掃りのおねえさん、赤ちゃんをおんじい、両手に荷物をついばい持っている。おぼん。どこへ行くのさうさ。」
あてもなく、「火」水「津波」に、おわて逃げた。今日の夜、どこへ逃げてもわからず、どうにもまれ、逃げて行く。一年生の先生も、生徒を自分の子のように、だき、おんじい、逃げていく。わたしは、あの日のことを思い出さず、そっとうる。もう二度と、地震というものが、こないように、わたしは願う。



3. にげる!!

●新潟地震の作文と版画を新潟県支部がデジタル化した文集

4/11 新潟市南万代小学校とのオンライン交流

(※珠洲市立正院小学校ブログから写真、文書引用)

https://cms1.ishikawa-c.ed.jp/shouie/blogs/blog_entries/index/page:2?frame_id=12

11日(木)、13時20より新潟市南万代小学校とのオンライン交流を行いました。南万代小学校では、60年前の新潟地震を教訓に防災学習に取り組んでいる学校です。新潟県の防災士会の皆さんがその学習をサポートされているとのこと。また、新潟県の防災士会の皆さんは、1月から本校避難所活動の支援をされています。今回、新潟市南万代小学校の子ども達は、自分たちの古本を集め、売った収益を本校に義援金として寄贈して下さることになりました。今朝、新潟県の防災士会の方が新潟を出発し、お昼ごろ本校までその義援金を届けてくれました。



続いて防災士の方から本校の6年生へ義援金が手渡されました。次に児童を代表して、義援金をいただいたお礼を伝えることができました。最後に校長から、正院小学校の特色として、もうすぐ150周年を迎えること、6月には創立記念相撲大会や鼓笛パレードを行っていること、地震の影響で児童数が約半分になったことを伝え、地震で他校に学んでいるみんながいつでも帰ってこられるように、あふれる声で、あふれる夢で明日を夢見てすすんで学ぶ正院小学校となるように取り組んでいきたいことを話しました。



1度だけの交流とせず、ぜひ今後も定期的に交流できればいいと思います。新潟市南万代小学校の皆さん、義援金ありがとうございました。大切にさせていただきます。

ご関係のみなさまへ

日本防災士会・新潟県支部 被災地支援推進部長 長濱 直也

新潟県支部 珠洲市 第 2 陣 災害支援ボランティア活動

6 月 4 日～7 日、珠洲市で災害ボランティアを実施いたしましたのでご報告します。

4 月の支援活動に引き続き、新潟県支部会員 4 名再度、珠洲市に入りました。

今回は女性防災士も初参加しています。

4 月は家屋の解体を待つと思われるガレキだらけでしたが、2 か月経過し公費解体が少しずつ進んでいます。

■日時 令和 6 年 6 月 4 日（火）～6 月 7 日（金）

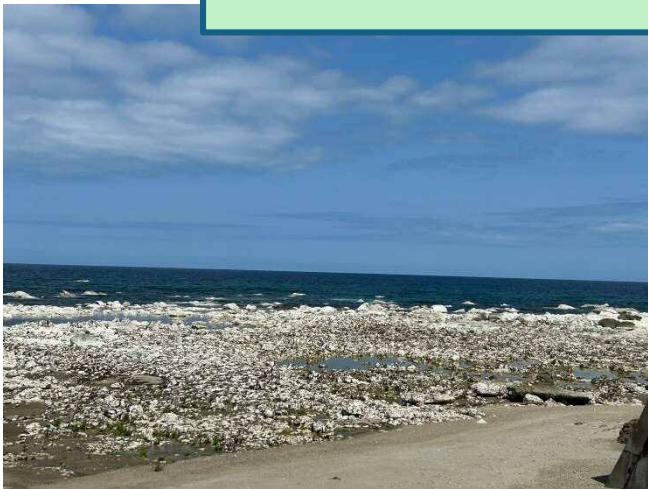
■人員 新潟県支部会員 4 名

■内容 1 日目：正院小学校との交流・正院公民館避難所への訪問活動

2 日目：AM: 畳の運びだし・家具の移動 PM: 津波被災地区での側溝掃除

3 日目：AM: 津波被災地区での側溝掃除 PM: 仏壇・家財の移動

4 日目：輪島市被災現場見学・各市ボランティアセンター訪問

珠洲市高屋町沿岸部（白い部分が約 1 メートル海底隆起）**珠洲市 VC 活動終了後 集合写真**

6月4日朝新潟を出発した新潟県支部4名は、到着して真っ先に新潟市の南万代小学校と交流している正院小学校に新潟名物笹団子をお届けしました。生徒たちが「笹団子贈呈式」をしてくれました。

～珠洲市立正院小学校 ブログから引用～

6/4 素敵な贈り物

投稿日時：06/04 [shouie](#)

4日(火)の午後、4月に新潟県・南万代小学校とのオンライン交流でお世話になった新潟県・防災士会の皆様が来校され、子ども達に笹団子をプレゼントしてくれました。子ども達は久しぶりの再会を喜ぶと共に、おいしそうな笹団子をいただいて嬉しそうでした。新潟県防災士会の皆様は、これから数日ボランティア活動に取り組みれるとのこと。大変ありがたい限りです。



遠路珠洲まで何度もおいでいただき、また素敵な送りものもいただき本当にありがとうございました！